武蔵野・生活者ネットワークレポート No.55

●発行：武蔵野・生活者ネットワーク　●発行責任者：小出律子
●〒180-0006　武蔵野市中町 3-11-13-102　●TEL＆FAX：0422-36-3767
■http://musashino.seikatsusha.net/　■musashino@seikatsusha.net
武蔵野ネット　で検索

●武蔵野市ならではの、自治・市民参加のルールをつくろう！

武蔵野・生活者ネットワークは、地域のつながりの中で、誰もが安心してくらすまちをめざし、「市民が自治するまちをつくる」「大事なことは市民が決める」などの政策を掲げています。しかし、市民と行政がともにまちづくりに取り組むことの意義が、まだまだ浸透していません。私たちは10月6日に行われる市長選挙で「市民が主役」でまちづくりをすすめる、現職の邑上守正さんを応援します。邑上市長と西園寺みきこが「自治基本条例」や「市民と職員は育ちあう関係」などのテーマで対談をしました。

■自治基本条例は市民参加のルール

西園寺●生活者ネットワークは政策の柱として「市民自治を進める」を掲げています。市長の公約「確かな未来への8つの目標」の中に「自治基本条例の制定」がありますが、今後どのように進めますか？

邑上市長●議会の役割も重要であり、議会の意見も聴きながら検討していきたいと思います。また、検討のプロセスの中でどのように市民を巻き込んでいくか、その過程を大事にしたいと考えています。市民と議会と行政とが丁寧に自治基本条例の大切さを学びつつ出来たらいいですね。条例の中身も大事です。市民参加のルールも、今までの実践をもとに武蔵野市にふさわしいやり方を制度として固めていくというのがいいのではないかと考えています。

市長！いっしょに頑張りましょう。

西園寺●幅広い市民の声を聞くために実施した「無作為抽出によるワークショップ」は有効だったと思います。関心を持って下さった皆さんに次のステップとして、グループを作り市民活動を始めることや、地域の課題に応えるコミュニティビジネスのような、市民参加をすすめる道筋が必要です。「自治基本条例制定」はひとつのシンボルで、市民と市職員が一緒に学び高め合いながら、まちづくりに取り組む。この歩みそのものが武蔵野市の市民自治を深めるのではないでしょうか。

邑上市長●自治基本条例はメニューが他の自治体と同じようになりがちですが、それに拘ることはありません。武蔵野市の市民自治の在り方をもう一度洗い直し、武蔵野市ならではの自治・市民参加のルールができればいいと思います。

西園寺●参加は何も市民だけではなく、議会や職員や事業者も同様です。それは権利と責任がセットになっていないと機能しないと思います。市民と職員がどのように話し合って責任を分かち合っていくのか、これが課題ですね。第四期調整計画の策定は市民の大きな学びの場となり、多くの委員経験者が市政に関わるきっかけになりました。

■議会の役割

邑上市長●私がタウンミーティングで市民の意見を聞くのと同様、市民の代表である議会と議員も、市民と意見交換する場をつくる姿勢があってもよいと思います。

西園寺●今期の議会改革懇談会では、議会報告会を合意・実現できず残念でしたが、10月に議会運営委員会として会津若松市議会への視察が計画されています。市議会全体で市民との意見交換の場を持つことの重要性を共有できるといいですね。期待しています。

邑上市長●昨年「これからの地域コミュニティと市民自治のための市民ワークショップ」を2回実施しましたが、「議員が何をしているのか見えない」との意見が出ています。

■市民と職員は育ち合う関係

西園寺●市民は地域で学びあいながら育っていきます。が、職員に「市民と一緒にやっていくのだ」という理解が不十分だと感じます。専門性のある嘱託職員がもっと活躍できる環境整備も必要です。職員の皆さんにもっと能力を発揮してもらえるような学びの場があればいいと思いますね。

邑上市長●本当の意味での協働事業をすれば、今おっしゃったようなことをやらざるを得ないのです。市民参加というと職員は引いてしまう傾向がありますが、彼らも武蔵野市の一員なのです。情報を持っているのは職員なのですから、それを市民に提示しながら一緒に進めていくのが本来の協働ですよね。

西園寺●市民と職員が一緒にまちづくりを進める。協働の理念が市民にも職員にも伝わっていないと感じます。協働することの醍醐味を味わったことがないからかもしれません。

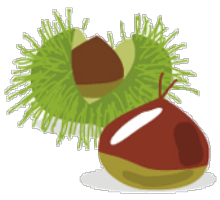
■誰もが安心して暮らせるまちに

邑上市長●「一人でも安心して暮らせるまち」は注目すべき課題です。武蔵野市は単身世帯が多いのですが、それを負の面で捉えがちでした。これからの住まい方を考えれば誰でもひとりになる可能性があるわけです。家族だけが全てではないのだ、ということをうまく伝えたいですね。

西園寺●若い単身者を地域のコミュニティにどのように繋げていくのかは、今後の課題だと思います。小中学生の時から地域とどのようにつながっていくのかが大事ですね。

邑上市長●地域というと、コミュニティセンターが思い浮びます。8月の総務委員会で報告しましたが、コミセンの理念的な位置づけをもう一度構築しようと考えています。防災も福祉も全ては地域のつながりの中でみていく必要があります。大きな理念を共有して、後は地域独自の動き方で進めていく、それにはやはりコミセンの活動は大きな意味を持っていると思います。

西園寺●武蔵野プレイスのコーディネーターの方々は、市民同士をつなげる対応を心掛けていますね。同様の対応が市内の各窓口で進んでいくと自然とまちがつながり、一人でも安心して暮らせる武蔵野になっていくと期待しています。



■スクールソーシャルワーカーへのヒアリング

「子どもの問題行動の理由を見つけ、福祉的な支援を行うには」

いじめ・不登校・暴力・虐待など、子どもたちのおかれている環境は複雑になっています。スクールカウンセラーが心理的指導を行う一方、スクールソーシャルワーカー（SSW）は社会福祉士の専門知識と技術を活用し、子ども達にかかわりのある人々に働きかけ、家庭・学校や地域の関係機関をつなぎ、専門家として解決に向けて支援しています。二〇一二年度は82件の相談を受けました。

武蔵野市では、深澤信枝さんが嘱託で専門職として市内18校を1人で担当しています。生活者ネットは配置の要望を重ね、二〇一〇年度に実現しました。

深澤さんは、

●学校と共にチーム支援を行い、問題を抱えた子の強み（長所や望む方向）を再認識し、チーム全員で経緯を共有して、問題解決の道筋につなげています。

●シルバー人材センターやテンミリオンハウス・コミセン・地域の団体にも見守りを依頼しています。

●平日に保護者と打ち合わせができない場合は、休日の学校行事に参加して相談したこともあるとのことです。

ネットはSSWをより活用できるよう現在「複数化・権限の明確化」「スーパーバイザー（SSWを支援する専門家）の配置」を市に要望しています。今秋には実習生を受け入れ、次世代の育成も始まります。私たちも、子どもたちの学びや育ちを支えるSSWについて認識を高める必要があります。

子ども女性部会　藤井美里

生活者ネットワークのルール

・ルール１：議員はローテーション
　議員を職業化・特権化せず、世代交代を進め参加の層を広げます。
・ルール２：議員報酬は市民の活動資金に
　議員も報酬に応じた寄付（カンパ）を行い、市民の政治活動資金に活かします。
・ルール３：選挙はすべて手づくりで
　みんなでお金（カンパ）と、知恵や労力（ボランティア）を出し合います。
・生活者ネットワークはローカルパーティー（地域政党です）
　1979年に初の区議会議員を送り出して以来、「政治を生活の道具に」を掲げ、生活の中の課題に取り組んでいます。現在都議会議員３人、区市議会議員51人が活動。国会議員を出していませんので、政党交付金は受け取っていません。